

令和6年度 白川郷学園 社会科研究構想

研究主題

学びのひとりだちを目指す授業の創造

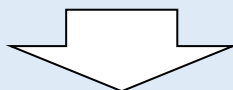
社会科で願う子どもの姿

社会的事象の意味を追究する中で、子どもたちが自ら見いだした問いに対して、社会的事象の見方・考え方を働かせ、既習内容や生活経験、他教科の学びを関連付け、多様な他者との協働を通して、よりよい社会や幸福な人生につながる自分なりの考えや解決策を考える姿

児童・生徒の実態

○社会的事象について、興味・関心をもって主体的に追究したり、授業後にも自主学習に取り組んだりすることができる。

▲自分の考えを見つめ直し、再構築する姿に弱さがある。その要因として、多様な他者に働きかけて考えをよりよくする意味を子どもたちが感じていない。また、子どもたちが学習したことよさや自己の成長を実感するために、価値付けたり方向付けたりする手立てを工夫していく必要がある。



研究内容

○9年間の学び方の系統性のもと、学びのひとりだちを目指す授業の工夫

(1) 明確なめあてや課題意識をもてる導入

- ・子どもたちにとって学ぶ目的や必然性を感じられる社会的事象との出会いの創出
- ・子どもたちが問題意識をもって問いを見だし、学習の見通しをもつことができる導入の在り方

(2) 課題解決の具体的な見通しをもち、多様な学び方で試行錯誤できる展開

- ・働かせたい社会的事象の見方・考え方を焦点化する発問の工夫
- ・学びのひとりだちを支える学習環境の設定

(3) 自らの変容や学び方の自覚を促し、次の学びに生かす終末

- ・自己の変容を自覚できる振り返りの視点の共有
- ・一人ひとりの学びのよさや価値を広げる教師の見届けの工夫

※(1)～(3)の手立てとしての白川村の地域素材の活用

※研究の土台としての基礎学力の定着を図る「みがき」の時間の充実